

ヨハネ第一書序言

本書の差出人および受取人 確實な伝えによると、聖ヨハネは長いことエフェゾに住み、小アジア各地の諸教会をつかさどったが、一世紀の終わりにあたり、信徒の願いで福音書を書いたと言われる。それゆえ本書も、ある一カ所のためにしたためたものではなく、小アジア諸教会のためにしたためられたもので、他の書簡と異なつて、個人に対する挨拶等を欠いたのも、このためであろう。

本書の由来 本書は福音書の序文としてしたためられ、それをあとから送ったものであらうと思われる。第二章の十三、四節で、「われ汝らに書き送る」と三回も書いたのに、ギリシア文では、そのつづぎの文に更に三カ所「書き送りし」とある。これは、現に送るのは本書のことで、すでに送ったのは福音書のことをさしているものであると思ふ。本書が書き送ることは、自分で見聞きし、かつ保証すること、その目的は本書の中に「読者をしておのれと一致せしめ、父および御子イエズスと一致せしめんため」とあるから、教会の人々に福音を固く信じさせようとすることにあるのだらう。

本書の題目および区分 題目は、人となり給うた神の御子を信仰することを救霊の原因として勧め、また兄弟的相愛を勧めることにある。述べる事がらは順序がないと言うこともできないが、その順序は論理的でなく、むしろ思想を述べて、これを読者の黙想に任せ、しばらく他の思想に

移ってこれを述べるうちに、また再び前の思想に帰って、これを他の方面から観察することがある。時によっては格言の形式をもって教え、時によっては老父の注意に属することがあり、その思想の荘嚴で言葉の質朴なことは福音書に似ている。要するに聖ヨハネの筆は議論にはわたらな
い、使徒しかも老衰した使徒にふさわしい穩健な調子を備え、人をして、その説くところが真
実であることをますます信じさせるところがある。区分すると短い冒頭（一章一―四節）のち
本文は三項に分けられる。第一には、神は光にたまはし給うから信者は自ら光のうちに歩み、
キリストに密着してその光を減らすようなことをことごとく除かねばならぬことを述べ（一章五
節―二章二十八節）、第二には、神が義にたまはし給うことを述べて、ついでに神の子どもと
悪魔の子どもとを分け、愛と憎しみとのこと、ならびに愛の印を述べて真理の霊と誤謬の霊とを
分ける（二章二十九節―四章六節）。第三には、神が愛にたまはしますこと、および愛の理由と効
果と印とを述べて、もっぱら愛することを勧め、最後にイエズス・キリストにおける信仰および
その尊い効果を説く（四章七節―五章十二節）。終わりに末文がある（五章十三節以下）。

本書をしたためた年代および場所 これについては確かな証拠はない。しかしおよそ一世紀の
終わりころにエフェゾでしたためたものであらう。

使徒聖ヨハネ第一書簡

冒頭

1 **第一章** 本書の題 1 生命のみ言葉につきて、もとよりありたりしところ、われらの聞きしところ、

2 目にて見しところ、つらつら眺めて手にてあつかいしところ、2 すなわち生命「たるもの」現われ給えり、われらはかつて父の御もとにましまして、われらに現われ給いし永遠の生命を見奉り、これを保証し、かつ汝らに告ぐるなり。

3 **その目的** 3 われらが見聞きせしところを汝らにも告ぐるは、汝らをもわれらにくみせしめ、4 かつわれらのくみをして父とその御子イエズス・キリストとともにあらしめんため、4 これを書き送るは（汝らが喜びて）その喜びの全からんためなり。

第一項 神は光にてましますれば、

われらは光の子として生活すべし

5 **原理** 5 さてわれらがキリストより承りて汝らに伝うるところの告げはこれなり、神は光にてましますし、これにいささかも暗闇あることなし、6 われらもし彼にくみし奉ると言いて暗闇を歩まば、これ偽りて誠を行なわざるなり。7 されど彼が光にましますがごとく、われらも光のうち

に歩まば、これ互いに相くみして、その御子イエズスの御血は、われらをすべての罪より清むるなり。

8 罪をざんげすべし 8 もしわれら罪なしと言わば、自ら欺く者にして真理はわれらのうちにあらず。9 もしわれら罪を告白せば、神は眞実正義にましまして、われらの罪を許し、われらをすべての不義より清め給うべし。10 もしわれら罪を犯したることなしと言わば、神を虚言者とし奉るものにして御言葉われらにあらざるなり。

① ヨハネ1・1 ② 本書5・11、12、20、ヨハネ1・4、14

1 **第二章** 罪の良樂 1 わが小子よ、これらのことを汝らに書き送るは汝らが罪を犯さざらんため

なり。されどもし罪を犯したる者あらば、われらは父のみ前に弁護者を有せり。これすなわち義者イエズス・キリストにして、2 彼はわれらが罪の贖いにてまします、ただにわれらの罪のみならず全世界の罪に対してもまたしかるなり。

4-3 掟おきてに服すべし 3 われらその掟を守る時に、これによりて彼を知り奉れることを悟る。4 自ら彼を知り奉れりと言いてその掟を守らざる人は虚言者にして真理そのうちにあらず。5 その御言葉を守る人には神に対するの愛ありて完全なり。われらはこれによりて、おのれの彼にあること

を悟る。6 彼に留まり奉ると言う人は、おのれもまた彼が歩み給いしごとくに歩まざるべからず。

7 相愛そうあいの掟 7 至愛なる者よ、わが汝らに書き送るは新しき掟にあらず、汝らが初めより受けたる古き掟にして、古き掟とは汝らの聞きし御言葉なり。8 また新しき掟を汝らに書き送る。こは彼においても汝らにおいても等しく誠なり、そは暗闇過ぎ去りて誠の光すでに照ればなり。9 自

10 光にありと書いて、おのが兄弟を憎む人は今に至るまで暗闇のうちにおるなり。10 おのが兄弟
 11 を愛する人は光に留まりて彼にはつまずく所なし。11 されどおのが兄弟を憎む人は暗闇にありて
 暗闇に歩み、暗闇のために目をくらまされたるがゆえに行くべき所を知らざるなり。

12 書き送るゆえん 12 小子よ、わが汝らに書き送るは汝らの罪、キリストのみ名によりて許され
 13 たるがゆえなり。13 父たちよ、わが汝らに書き送るは汝らが初めより存し給えるものを知りたる
 14 がゆえなり。青年たちよ、わが汝らに書き送るは汝らが悪魔に勝ちたるゆえなり。14 子どもたち
 よ、わが汝らに書き送りしは汝らが父を知り奉れるゆえなり。父たちよ、わが汝らに書き送りし
 は汝らが父を知り奉りたりしゆえなり。若き者よ、わが汝らに書き送りしは汝らが強くして神の
 御言葉、汝らのうちに留まり、汝ら悪魔に勝ちたるゆえなり。

15 世間を愛することなかれ 15 世および世にあることを愛するなかれ、人もし世を愛せば父に対
 16 する愛これに存することなし、16 そはすべて世にあること、肉の欲、目の欲、生活の誇りは父よ
 17 り出でずして世より出ずればなり。17 しかして世もその欲も過ぎ去れど神のみ旨を行なう人は限
 りなく存するなり。

18 キリストの敵、現われたり 18 小子よ、末の時なり、かつて非キリスト⁶来ると汝らの聞きしご
 19 とく、今すでに非キリストとなれる者多し。われらはこれによりて末の時なるを知る。19 彼らは
 われらのうちより出でたれど、もとよりわれらのものたらざりき。もしわれらのものたりしなら
 ば、われらとともに留まりしならん。しかるに「かくのごとくなるは」彼らがみなわれらのものた
 らざることの明らかにならんためなり。

20-21

偽教師を弁別する法

20 汝らは聖なるものより注油せられて、いっさいのことを知れり、21 わ

が汝らに書き送りしは真理を知らざる者としてにあらず、これを知り、また偽りはすべて真理より出でざることを知る人として書き送れるなり。22 偽る者はたれぞ、イエズスのキリストにてましますことを否める人にあらずや。御父および御子を否める人、これこそは非キリストなれ。

24-23

23 すべて御子を否める人は御父をも有し奉らず、御子を宣言する人は御父をも有し奉るなり。24 願わくは、汝らが初めより聞きしところ汝らのうちに留まらんことを。もし初めより聞きしところ汝らのうちに留まらば汝らもまた御子および御父のうちに留まり奉らん。25 それ御子が自らわれらに約し給いし約束は、すなわち永遠の生命なり。

26 固くキリストの教えにつくべし 26 われ汝らをまどわす人々につきてこれらのことを書き送り

27 たれども、27 汝らは彼より賜わりし注油その身に留まりて、人に教えらるるを要せず、その注油は万事につきて汝らを教え、しかも誠にして偽りにあらず、汝らその教えたるままにこれに留まれ、28 小子よ、いざ主のうちに留まり奉れ、しからばその現われ給わん時、われらは、はばかるところなくその降臨において彼よりはずかしめられじ。

第二項 神は義にてましませばわれらは義によるべし

29 汝ら神が義にてましますことを知らば、また義をなす人の彼より生まれ奉りしをわきまえよ。

① ヨハネ14・16、26、15・26 ② ラテン訳では許さるる。 ③ ラテン訳では書き送る。 ④ この句はラテン訳には

見えない。⑤ラテン訳では、すべてこの世にあるは肉の欲、目の欲、生活の誇りにして、父より出でず世より出ず。
 ⑥キリストの大敵で、世の終わりに教会を乱そうとする者のこと。黙示録13、17、テサロニケ後書2・3と8 ⑦ラテン訳では留まれかし。

第三章

神の子ども

1 われらが神の子どもと称せられ、かつしかあらんために父のわれらに賜
 2 いし愛のいかなるかを見よ。世のわれらを知らざるは彼を知り奉らざるがゆえなり。2 至愛なる
 者よ、われらは今、げに神の子どもたり、されどそのいかになるべきかはいまだ現われず、われ
 3 らはその現われん時、われらが神に似奉るべきを知れり、そはこれをありのままに見奉るべけれ
 3 ばなり。3 すべてこの希望を有する人は、なお彼も清くまします¹がごとくおのれを清からしむ²。
 5-4 悪魔の子ども 4 すべて罪を犯す人は律法を犯す³、すなわち罪は律法を犯すことなり⁴。5 また
 イエズスの現われ給いしは、われらの罪を除かんためにして彼にいささかの罪なきことは汝らの
 6 知るところなり。6 すべて彼に留まる者は罪を犯さず、すべて罪を犯す人は彼を見奉りしことなく、
 7 彼を知り奉ることなし。7 小子よ⁵、たれにもまどわさることなかれ、義をなす者は義人なり、
 8 なお彼が義人にてまします⁶がごとし。8 罪をなす者は悪魔よりの者なり、そは悪魔は初めより罪
 9 をなすものなればなり。神の御子の現われ給いしは悪魔の業を滅ぼし給わんためなり。9 すべて
 神によりて生まれ奉りし人は罪をなさず、そは御種^{おんたね}これに存すればなり。また罪をなすあたわず、
 10 そは神によりて生まれ奉りたればなり。
 10 神の子どもの特徴 10 神の子どもと悪魔の子どもとは、ここにおいてか明らかに現わる、すな
 11 わち、すべて義をなさざる人は神よりのものにあらず、兄弟を愛せざる人もまたしかり、11 そは
 12 互いに相愛せよとは汝らが初めより聞きし告げなればなり。12 カインのごとくなすべからず、彼

は悪しきものより「の人」にして弟を絞め殺ししが、これを絞め殺ししは何ゆえぞ、おのが業は悪しくして弟の業は正しかりしゆえなり。

14-13 愛と憎み 13 兄弟たちよ、世の汝らを憎むを怪しむことなかれ、14 われらは兄弟を愛するによりて死より生命に移されたるを知れり、愛せざる人は死に留まる。15 すべておのが兄弟を憎む人は人殺しなり、すべて人殺しは永遠の生命のその身に留まることなきは汝らの知るところなり。

16 愛の印 16 われらが愛を悟りたるはキリストがわれらのために生命を捨て給いしをもってなり、われらもまた兄弟のために生命を捨つべし。17 この世の財産を持てる者、兄弟の窮乏せるを見つづ、これにおのが腹わたを閉じなば、いかでか神に対する愛のこれに留まることを得んや。18 わが小子よ、われらは言葉と舌とをもって愛すべからず、行ないと誠とをもってすべし。19 これをもつてわれらが自ら真理によれることを知る、またみ前においてわが心を勧めん、20 けだし、われらの心われらをとがむるも、神はわれらの心より偉大にましまして万事を知り給うなり。21 至愛なる者よ、もしわれらの心われらをとがめずば、神のみ前において、はばかるところなし、22 また何ごとを願うもこれを賜わるなり、そは神の掟を守りてみ心にかなうことを行なえばなり。

23 かくてその掟は、すわなち御子イエズス・キリストのみ名を信じ奉り、かつそのわれらに命じ給いしごとく互いに相愛すべきことこれなり。24 神の掟を守る人は神に留まり奉り、神もまたこれに留まり給う。われらが神のわれらに留まり給うことを知るは、そのわれらに賜いし「聖」靈によりてなり。

①ラテン訳では聖にたまします。②ラテン訳では聖ならしむ。③ラテン訳では不義をなす。④ラテン訳では不義なり。

⑤ 悪魔の意。⑥ 創世記 4、ユダ書 11。⑦ ラテン訳では神の愛。⑧ ラテン訳では賜わるべし。

1 **第四章** 真理の靈および誤謬の靈 1 至愛なる者よ、汝らすべての靈を信ぜずして靈の神よりの

2 ものなりやいなやを試みよ、そは多くの偽予言者世に出でたればなり。2 神の靈はこれをもって
知るべし、すなわち肉身において来り給いしイエズス・キリストを宣言する靈は、すべて神より
3 のものなり。3 またイエズスを宣言せざる靈は、すべて神よりのものにあらず、これ非キリスト
の靈なり。3 汝らかつて彼の来るを聞きしが彼今すでに世におるなり。

4 奨励の言葉 4 小子よ、汝らは神よりのものにして、かの偽予言者に勝てり、これ汝らにまし
5 ませるものは世にあるものよりまさり給えばなり。5 彼らは世よりのものなれば世に従いて語り、
6 しかして世は彼らに聞く。6 われらは神よりのものなり、神を知り奉る人はわれらに聞き、神よ
りならざる人はわれらに聞かず。われらはこれをもって真理の靈と誤謬の靈とを知る。

第三項 神は愛にてましますれば、

われらは愛を有せざるべからず

第一款 愛の起源、効果および印

7 神の愛 7 至愛なる者よ、われらは相愛すべし、これ愛は神より出で、またすべて愛する人は
8 神より生まれて神を知り奉る者なればなり。8 愛せざる人は神を知り奉らず、けだし神は愛にて
9 ます。9 神の愛のわれらにおいて現われしは、神がわれらをしてこれによりて生きしめんと

めに、その御ひとり子を世に遣わし給いしをもってなり。

10 兄弟の愛 10 愛とはこれなり、すなわち、われらが先に神を愛し奉りしにあらずして神御自ら先にわれらを愛し給い、われらの罪のために御子を贖いとして遣わし給いしなり。11 至愛なる者よ、神のわれらを愛し給いしことかくのごとくなれば、われらもまた相愛すべきなり。

12 愛の効果およびそのゆえん 12 たれもかつて神を見奉りしことなし、われらにして相愛せば神われらのうちに留まり給いて、これを愛し奉る愛はわれらにおいて完全なり。13 われらが神に留まり奉ることと、神がわれらに留まり給うこととを知るは、神がその霊をわれらに賜いしによりてなり。14 父が御子を世の救い主として遣わし給いしことは、われら目撃してこれを証す。15 およそイエズスが神の御子にいたしますことを宣言する者は、神これに留まり給う、彼もまた神に留まり奉る、16 神のわれらに対して有し給える愛は、われらこそこれを知り、かつ信じたる者なり。神は愛にてまします、しかして愛に留まる者は神に留まり奉り、神もまたこれに留まり給う。17 愛がわれらにおいて完全なるは、われらが審判の日に、はばかりとところなからんためなり、そはわれらはこの世において主に似奉ればなり。18 愛には恐れなし、恐れは苦罰を含むがゆえに完全なる愛は恐れを除く、恐るる者は愛に完全ならざる者なり。

19 愛することを勧む 19 さればわれら神を愛し奉るべし、神まずわれらを愛し給いたればなり。

20 人ありて、われ神を愛し奉ると言いつつ、おのが兄弟を憎まばこれ虚言者なり、けだし目に見ゆる兄弟を愛せざる者、いかでか見え給わざる神を愛し奉ることを得べき。21 かつ神を愛し奉る人は、おのが兄弟をも愛すべしとは、これわれらが神より賜われる掟なり。

①ラテン訳ではイエズス・キリストの肉身において来り給いしことを。②ラテン訳では解く。③ラテン訳では非キリストなり。④ラテン訳では彼に。⑤ラテン訳では神の愛。

第二款 イエズス・キリストにおける信仰およびその尊き結果

1 **第五章** 信仰の勝利 1 すべてイエズスのキリストにてましますことを信ずる人は神より生まれ奉りたる者にして、すべて生み給いしものを愛する人はまた神より生まれ奉りたる者をも愛する¹なり。 2 われらは神を愛し奉りてその掟を實行する時、これをもって神の子どもを愛することを 3 知る、 3 それは神に対する愛はその掟を守るにあればなり。かくてその掟はかたきものにあらず。 4 4 けだし、すべて神より生まれ奉りし者は世に勝つ、しかして世に勝ちたる勝利はわれらの信仰 5 これなり。 5 世に勝つ者はたれぞ、イエズスが神の御子にてましますことを信ずる者にあらずや。 6 信仰を保証するもの 6 これぞ水と血とによりて来り給いし者、すなわちイエズス・キリストなる、ただ水のみにあらず、水と血とによりてなり。これを証し給うものは「聖」靈にして、「聖」靈は真理にてまします。 7 けだし（天において証するもの三つあり、父とみ言葉と聖靈とこれなり、しかしてこの三つのものは一に^{いっ}歸し給う。 8 また地において）証するもの三つあり、靈と水と血とこれなり、しかしてこの三つのものは一に^{いっ}歸す。

9 その保証の価値 9 われら人の証を受くれば神の証は更に大いなり、しかして神のこの証の大 10 いなるは御子につきて証し給いしがゆえなり。 10 神の御子を信じ奉る人は、おのれのうちに神の

証を有す、神⁴を信ぜざる人は、これを虚言者となし奉る者なり、そは神が御子につきてなし給え
 11 証を信ぜざればなり。11 その証はこれなり、すなわち神われらに永遠の生命を賜いて、この生
 12 命はその御子にあり、12 御子を有し奉る人は生命を有し、御子を有し奉らざる人は生命を有せざ
 るなり。

結 末

13 何ごととも祈禱をもつて得べし 13 わがこれらのことを汝らに書き送るは、神の御子のみ名を信
 14 じ奉る汝らをして自ら永遠の生命を有せることを知らしめんためなり。14 またみ旨に従いて願う
 15 時は、何ごとをもわれらに聞き給うことは、われらが彼において確信し奉るところにして、15 何
 ごとを願うも、われらに聞き給うことを知れば、また願いしところを得べきことをも知れるなり。
 16 罪人のための祈り 16 人もし、おのが兄弟の死に至らざる罪を犯すを見ば祈るべし、さらば生
 命は死に至らざる罪をなせる人に賜わるべきなり。また死に至る罪あれば、われはこれがために
 17 願うべしと言わず。17 すべての不義は罪なり、また死に至らざる罪⁵あり。
 18 三つの確信 18 すべて神より生まれ奉りたる人は罪をなさず、神より生まれ給いし者⁶これを守
 19 り給いて悪魔のこれに触ることなきは、われらこれを知れり。19 われらは神よりのものにして、
 20 世はこぞりて悪魔に属することは、われらこれを知れり。20 神の御子がわれらに誠の神を知らし
 め、われらをその誠の御子にあらしめんために、来りて知恵を与え給えることは、われらまたこれ

21 を知り。これぞ誠の神にして、また永遠の生命にてまします。21 小子よ、自ら守りて偶像に遠ざかれ。

① 信者の意。② ラテン訳ではキリストの真理にてましますことを証明する證なり。③ () 内の言葉はギリシア文には見えない。④ ラテン訳では御子を。⑤ 小罪のこと。ラテン訳では死に至る罪。⑥ 神の御子の意。ラテン訳では神より生まれしこと。